

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介 9—

オキクルミのチャシ（重要文化的景観G区域：三井沙流山林南区域に所在）

アイヌの文化神であるオキクルミの夫妻が住んだと伝えられるチャシ（居城）が、額平川河口域の左岸側から上流側に向かって続く丘陵の端にあります。

チャシが所在する丘陵一帯は、平取町を縦断する幹線道路から外れており、民家もありません。伝承地を含む周辺は切り立った山が連なっており、ほぼアイヌ口承文芸で受け継がれるオキクルミ伝承のイメージを損なわない状態が維持されています。

かつてこの場所は、オキクルミカムイの聖地として崇められ、人が近づいてはいけなかったと言われていました。荷負本村や貫気別など近隣の住民が付近を通るときは、頭につけているかぶり物などを取りはずし、わざわざ裏道を歩かされるほど遠慮しながら通行したと伝えられています。チャシとその周辺には、オキクルミにまつわるウパシクマ（言い伝え）やカムイユカラ（神謡）が語りつがれ、岩山と崖面の形象、森林植生などが良い状態で残されています。

地域の暮らしや世界観を正しく学ぶための好条件がそろった、北海道の中でも一級の価値をもつ平取町内のアイヌ伝承地をぜひご覧ください。（長田佳宏）



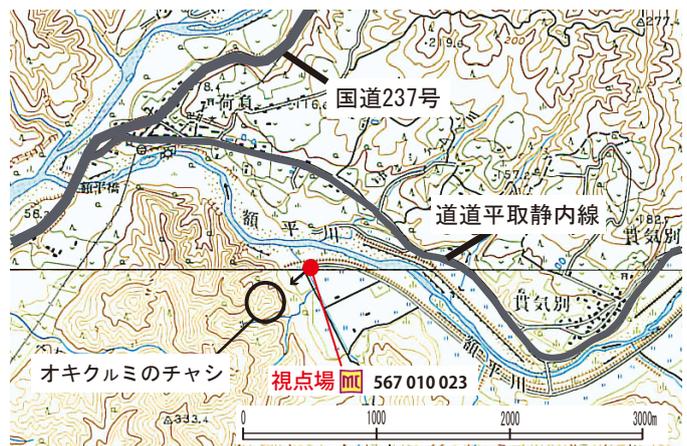
写真中央部の突き出た岩山が「オキクルミのチャシ」で、付近にはムイノカ（箕の形象）も所在する。

「オキクルミのチャシ」にかかる伝承の Web 閲覧

- ①二風谷アイヌ文化博物館ホームページ
- ②重要文化的景観紹介
- ③「北海道平取町文化的景観解説シート（ZIP）」を開く
- ④「E区域」→「61 オキクルミ伝承にみる植物利用」
→「資料3 シケレペコタンのウパシクマ」

カムイユカラ「オキクルミ トウレシヒ」について

・『萱野茂のアイヌ神話集成』第1巻カムイユカラ編Ⅰに収録（二風谷アイヌ文化博物館常設展示室でも視聴可能）



地域に残される様々な情報（伝承やアイヌ語音声資料）が、北海道特有の重要文化的景観の価値づけへとつながっていく。

伝承地は三井物産の社有林内に所在しており、平取町と連携しながら重要文化的景観の保全を推進している。